

# 漁期後半における平成29年生まれアユの時期別漁法別ふ化日組成と成長

大山明彦

## 1. 目的

4月以降の漁期後半に採捕されるアユの、時期別漁法別のふ化日組成を明らかにすることにより、いつ生まれたアユがいつどのような漁法で漁獲されているのかを明らかにすることを目的とした。

## 2. 方法

平成30年4月から同年7月までの間に、エリおよび小糸網（6月のみ）で採捕されたアユ計230個体を、体長を測定ののち耳石（偏平石）を摘出し、それをスライドグラス上で樹脂包埋および研磨を行った。その後耳石輪紋解析システムを用いて、耳石上の輪紋数（日周輪）とその間隔を計数記録した。

## 3. 結果

時期別漁法別にふ化日組成を確認したところ、エリでは4月は10月中旬、5月は9月下旬、6月は11月上旬および12月中旬にピークをとった。小糸網では20節、21節ともに10月下旬にピークをとった。参考に7月のエリ（n=7）では9月下旬であった。

エリでの平均体長をふ化時期別に見ると、4月では9月生まれ（n=10）が46.3mm、10月生まれ（n=37）が43.3mm、11月生まれ（n=13）が38.9mmであった。5月では9月生まれ（n=19）が69.9mm、10月生まれ（n=25）が55.6mm、11月生まれ（n=11）が43.6mm、12月生まれ（n=5）が38.5mmであった。6月では9月生まれ（n=10）が85.4mm、10月生まれ（n=11）が71.2mm、11月生まれ（n=21）が61.5mm、12月生まれ（n=16）が57.0mmであった。

一方、小糸網での平均体長は、20節では9月生まれ（n=6）が85.7mm、10月生まれ（n=9）が84.6mm、11月生まれ（n=6）が84.5mmであっ

た。21節では10月生まれ（n=12）が81.1mm、11月生まれ（n=3）が88.4mmであった。

4月から6月までのエリでのふ化時期別の出現頻度の推移を見ると、9月生まれは増加のち減少、10月生まれは減少、11月12月生まれは増加していた。一方、ふ化時期別に体長組成をみると、採捕時期が遅くなるにつれ、ふ化時期が早いものほどピークが明瞭でなくなり、幅広い体長に分布するように見受けられた。これは個体ごとの成長差などを反映しているものと思われる。

漁期後半のエリではふ化時期の遅かった群やふ化時期は早い成長の緩やかな群が漁獲される一方、小糸網ではふ化時期が早い群やふ化時期は遅いが成長の速やかな群が漁獲されるものと考えられた。

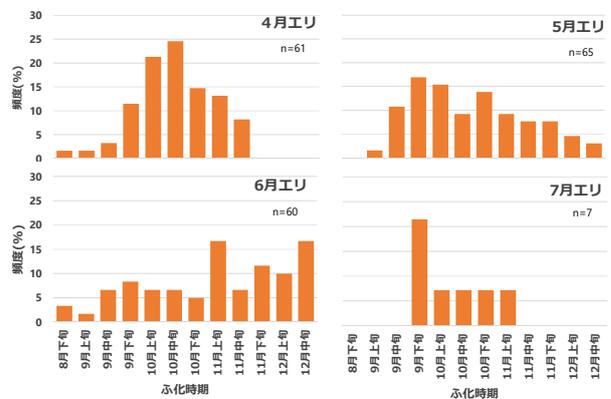


図1 エリの採捕時期別ふ化日組成

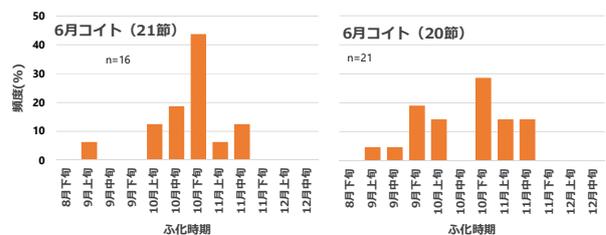


図2 小糸網（コイト）の目合別ふ化日組成